



## 平成 29 年度公益財団法人櫻谷文庫事業計画

### 基本的考え方

櫻谷文庫は、木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。

建造物 3 棟は、国登録有形文化財、京都市景観重要建造物に登録、指定されており、また本年 2 月 21 日、京都市文化財保護審議会により京都市文化財保護条例に基づき京都市有形文化財に指定の諮問があった。

収蔵品については、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての陽明学朱子学関係日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や、近代美術関係資料など一万点以上からなる。

建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアートル学園等と連携し、教育活動の推進のため協力、支援をすすめる。

### 公益目的事業

- (1) 2017 年～2018 年に開催される木島櫻谷展への協力(共催)
  - ・泉屋博古館(鹿ヶ谷) 特別展「木島櫻谷—近代動物画の冒険」  
期間 2017 年 10 月 28 日(土)～12 月 3 日(日)
  - ・京都文化博物館 「木島櫻谷の世界」  
期間 2017 年 10 月 28 日(土)～12 月 24 日(日)
  - ・泉屋博古館分館(六本木) 特別展「木島櫻谷—近代動物画の冒険」  
期間 2018 年 2 月～4 月  
所蔵品貸出料 200,000 円
- (2) 慶應義塾大学「反町文書」展への協力(独自)  
2017 年 10 月に丸善(丸の内)にて開催される、反町文書展に協力。
- (3) 今小路通り春の連携公開への協力(独自)  
京福電鉄、仁和寺、等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟、平野神社、北野天満宮、上七軒歌舞会の公開事業への協力
- (4) 櫻谷文庫の一般公開(独自)
  - ① 泉屋博古館(鹿ヶ谷)、京都文化博物館で開催される木島櫻谷展に連



携し櫻谷文庫を公開する。

テーマ「木島櫻谷 写生」

期間 2017年10月28日(土)～12月3日(日)金土日祝(18日間)

公益収入 入場料(600円×60人/日×18日=)648,000円

公益経費 人件費(18日×5人×5,500円=)495,000円、印刷代 30,000円、雑費・通信費 20,000円

② 2018年3月3日から4月1日、「桃の節句」の時期の公開・展示

期間 2018年3月3日(土)～4月1日(日)(15日間)

公益収入 入場料(600円×60人/日×15日=)540,000円

公益経費 人件費(15日×5人×5,500円=)412,500円、印刷代 30,000円、雑費・通信費 20,000円

(5) 櫻谷文庫の随時公開1. (独自)

京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アートリサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習、衣笠小学校社会科見学など教育・研究への協力、併せて京都市 MICE 推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

公益収入 70,000円(内訳 大学講義演習関係 50,000円、文化財マネージャー育成講座 20,000円他映像制作協力関係)

(6) 櫻谷文庫の随時公開 2. (独自)

随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。

(7) 地域、美術系、学術教育、映像メディア連携と櫻谷文庫情報の拡散(独自)

等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館、高津古文化会館他美術系法人、地域の等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟他との連携、京都への来訪者の多い東京でのPR強化のため京都市東京事務所、京都館(東京・八重洲)、江東区文化コミュニティ財団、住友財団との連携、京福電鉄、JR西日本京都交流推進委員会、JR東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会(京都駅観光総合案内所を含む)、京都新聞社、KBS京都、NHK、フジテレビ他との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなくインターネット・メディア Facebook、Twitter等の活用、継続的情報発信によりメディア・ミックスによる情報拡散を図る。



(8) 櫻谷文庫収蔵品の調査・整理データベース化(共同)

① 書簡等

数千点以上の書簡類の整理、調査を終了する。スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示につなげる。なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の2名で実施する。

② 画材

櫻谷の画材等の調査、分析、膠、顔料、墨、硯など画材類が櫻谷存命中のままの状態で遺されており、京都市立芸術大学の協力で、公益財団法人泉屋博古館との共同での分析、調査をすすめる。調査結果をもとに、現在調査中の書簡類、写生類、古典書類の調査とあわせて国登録有形文化財(美術工芸品)指定を働きかける。

(9) 櫻谷文庫収蔵品の修復・保全(独自)

① 第4回文展入賞作「かりくら」(明治43年(1910年)制作)の修復

公益収入 住友財団助成 2,110,000円

公益経費 墨仙堂委託費 2,110,000円

② 下絵写生帖修復(独自)

公益収入 京都府補助金 400,000円

公益経費 墨仙堂委託費 800,000円

(10) 所在不明櫻谷作品の所在調査

櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を15年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について調査を継続する。

(11) 建築物の修復保全

(12) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

## 収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする整美体操教室(講師:井上敦子氏)に旧画室を教室として提供する。その他の事業として学校法人ヴィアートル学園との連携による教育支援活動を行う。洋画家浜哲郎氏に制作室として提供していた和館の一部について、内装工事が終了したため、教育、地域、美術芸術関係の活用を検討する。